

法人	社会福祉法人光朔会 オリンピア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しい介護への転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
総括			
<p>27年目を迎えた2022年度は、社会福祉法人光朔会オリンピアにとってターニングポイントとなる年となった。</p> <p>一昨年より感染を拡大させてきた新型コロナウイルスは、オリンピアの各施設にも多大なる影響を与えてきたが、感染防止対策やワクチン接種等の方策が機能し、適度に恐れながら適切に対処することができつつある。</p> <p>数字の面においては、高齢者事業部門を中心に、クラスターの発生や利用控えなどにより収入を大きく落とした昨年度の反省をもとに収支改善に取り組み、多くの部門で大幅な回復を見せている。また、各施設においては、「今だからことできること」へのチャレンジを続けることができています。特に、11月に実施することができた、3年ぶりとなるスウェーデン研修や、国際ジェロンテクノロジー学会で発表された介護とテクノロジーに関する研究への協力、新聞・テレビ等各種メディアで度々取り上げられたBe Supporters!! など、特筆すべき取り組みが多い。</p> <p>感染拡大が落ち着きを見せてきたいまこそ、オリンピアの目指す「すべての人がその人らしく希望を持って輝くことができる」ノーマライゼーション社会の実現に近づけるよう、力を合わせて努力を続けていきたい。</p>			
運営評価			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] :本年度、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。</p> <p>2. 新しい介護への転換 [小規模] :ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] :オリンピア福祉塾講座、認知症高齢者や発達障害への理解を深めるための講演会、Salon de l'Olympiaなどを開催することにより、地域福祉の啓発に貢献した。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] :大阪大学大学院・YMCA・RC・行政・医師会 社会福祉協議会・各種民間企業などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] :各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] :内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティア資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] :コロナ禍においても、学会発表などの海外への発信、国際セミナーなどによる情報収集など、オンラインによる国際交流を通じ、世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] :収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努めた。</p>			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		
総括	<p>今年度は特養でクラスターが発生し、良くも悪くも、今までに経験したことのない異常事態に遭遇し、その状況を如何に乗り越えるか、この状況がいつまで続くのかという不安と隣り合わせの毎日に、沢山の方の協力を得て、ひたすら前だけを向いて突き進むことに奮闘した年であった。罹患者が出ることはコロナ禍になってから、何度か経験してきたが、ご入居者とスタッフで総勢40名の方の罹患者は、逃げ場所のない多床室・特養の壮絶な体験であった。そのような中、併設部門間の協力で備品管理から消毒対応まで、チーム一丸となって乗り越えることが出来た。法人内の他部門からのヘルプにも勇気を頂いた。そのような甲斐もあってデイサービスが非常に好成績で終わることが出来、次年度は利用日を増やすという新たな一歩に結び付けることが出来た。</p>		
事業評価	<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービスの提供:ご利用者様の「その人らしい生活」を大切に「有する能力」に応じた生活の支援を提供した。地域はコロナ対策を徹底し諸行事が戻り始め、各専門職を派遣し、お困りの方の支援・相談を積極的に受け入れた。地域包括支援センターだけでも3,000件を超える相談対応実績になった。昨年に引き続き、リモート交流等、創意工夫した日々の暮らしの支援、私たちのミッションの達成に拘り続けた。</p> <p>2. 財政基盤の確立:特養でクラスターが起きたが、コロナ罹患による補助金申請の他、稼働率98%以上の維持出来た。デイサービスは1日平均30名を超える月が数カ月あり122%の収入が見込まれる等、沢山の苦労を体験してきたが、転んでもただでは起きぬオリンピアの強さを発揮出来たのではないかとと思われる。</p> <p>3. 人材確保及び育成:SNSやラテラル採用といった面を強化し、派遣を頼らない運営に戻すことが出来た。</p> <p>4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す :他機関との連携、法人内の横の繋がりを利用した緊急ショートの入入れや虐待事例への専門職派遣や受入を積極的に行った。</p>		
研修	<p>【内部】各委員会の研修・虐待防止・身体拘束廃止・感染対策・事故防止</p> <p>【外部】感染症対策研修会・看取り栄養研修・防災(備蓄食)研修・介護支援専門員従事者研修 栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修・老施連 施設長研修・発達障害理解のための基礎と実践講座(リモートでの研修が大半であった)</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>日本メディカル福祉専門学校(2)・総合衛生学院(4)・松陰・武庫川女子大学(4)・龍谷高校での キャラバンメイト(120)・裁縫ボランティア(1)、絵手紙ボランティア(2) トライやるウィーク(4)・ワークキャンプ(中止)</p>		
行事	<p>誕生日会・特養デイサービス 映像鑑賞での花見・音楽療法教室・母の日クッキング・父の日プレゼント 調理レクに切り替えた夏祭り・リモートでの保育園児との交流会(オリンピア北保育園)・ヨガ教室・絵手紙 教室・エステ教室・特養 デイサービス クリスマス会・お鍋の会・お正月・あんしんすこやかセンター地域 ケア会議・認知症cafe・一人暮らし高齢者対象給食会・ふれあい喫茶・地域見守り連絡会 他</p>		
取得資格	介護福祉士(4)		

事業報告

2022年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. 理念に基づく、「その人らしい暮らし」の実現を目指す 2. 財政基盤の確立 3. 法人と地域の懸け橋を担う新たなチャレンジをする 4. 人材確保と人材育成				
事業評価					
<p>1. 理念に基づく、「その人らしい暮らし」の実現を目指すコロナ禍での面会など制限された施設での生活の中で、館内の設えを見直し、屋上に畑と花壇を作る等、豊かで楽しみのある時間を過ごして頂けるよう心掛けた。四季の行事もリモート交流会を積極的に取り入れる等、創意工夫して施設生活に楽しみを持って頂く挑戦をした。</p> <p>2. 財政基盤の確立:7月～9月までクラスターが発生してしまい、ご入居者様とスタッフを合わせて40名の方が罹患され、大変な経験をした。そのような中、中央・生田での横の繋がり、併設の他部門間の協力、法人内の他部署からのヘルプにより、どうにか収束することが出来た。収入に関しては、稼働率を98%以上に拘ったこと、また、コロナ罹患による補助金等の特別な収入もあり、当初予算に対して101%達成した。</p> <p>3. 法人と地域の懸け橋を担う新たなチャレンジをする:コロナ禍とクラスターの発生ということもあり、中々進展しにくい現状ではあったが、リモート交流会や緊急ショートの手入れ等、出来ることを精一杯務めた。</p> <p>4. 人材確保と人材育成:法人理念や3つの約束に基づいたケアを実行できる人材になれるよう研修を行った。EPAの積極的な受け入れと育成により、外国人スタッフが12名の大所帯になり、多国籍で充実している。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷 佐織
事業目標	1. コロナ禍で減少した新規利用者様の獲得、継続的な安定した利用者数の確保を目指す 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 人材の確保・育成				
事業評価					
<p>1. コロナ禍で減少した新規利用者様の獲得、継続的な安定した利用者数の確保を目指す:年間利用者数は、延べ 7,328人(28.4人/日)と、過去5年間で最高値を達成出来た。長引くコロナ禍の影響や感染対策、利用自粛等、随分としんどい思いをする時期もあったが、諦めずに、ひたすらに試行錯誤とチャレンジを継続して来た。それらの様々な取り組みが実り始めた年度であった。1日当たりの平均利用者数が30名を超える月が4回あった。収益に関しても当初予算の122.8%増の72,333(千円)で終えることが出来そうである。新規利用者様は71名登録に繋げることが出来た。次年度は土曜日開設を目指し、新たなチャレンジに向けて準備している。</p> <p>2. 質の高いサービス提供に努める:ケアマネジャーやご家族との連絡を密に取り、その人らしい暮らしを支援するという法人の理念に基づいたサービス提供を心掛けた。担当ケアマネジャーへ定期的にご利用者様の日常の様子を写真入りで情報提供する取り組みが好評で、新規利用者を積極的に紹介してくれるようになってきている。</p> <p>3. 人材の確保・育成:併設特養と連携して、新たにベトナム人スタッフを加える等したことが功を奏し、利用者様から、非常にかわいがって頂いた。スタッフ間の新たな刺激となり、人材確保の新たな可能性を模索していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1017件、要支援者プラン件数年間171件となった。認定調査は年間558件となっている。相談を契約、サービス利用に繋げ、それぞれの件数を維持する事ができている。</p> <p>2. 質の高い居宅介護支援:主任介護支援専門員に相談できる環境を確保しており、在宅での生活が維持できるようにサービス調整を行っている。利用者のアセスメントやモニタリングを実施する事で利用者の状況把握を行い、問題の早期解決を図っている。</p> <p>3. 地域、他事業所との連携:医療機関とはリモートでカンファレンスを行うなど直接面会以外の方法で連携を図る事ができた。また、圏域あんしんすこやかセンターからの相談など事業所とも連携を図る事ができた。オリンピアの名前を知って貰う事ができるよう地域行事の関わりを持つ事ができた。</p> <p>4. 介護支援専門員の資質向上:神戸市ケアプランチェックを受けた事でアセスメントの重要性や自立支援に沿った計画書作成について再確認する事ができ、また、個別に指導して貰う事で学ぶ事が多かった。研修もリモートや参集型などあり、積極的に参加できた。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	西川 晃
事業目標	1. 高齢者と地域の社会資源をつなげ、高齢になっても安心して住むことのできる地域づくりを支援する 2. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談ができる窓口として、広く認知される				
事業評価					
<p>1. 今年度は、コロナの感染対策を徹底した上で、各地域での活動が徐々に再開し始めた。その分、出来る限り、圏域内の各種事業所や各地区民生委員児童委員協議会の地域高齢者見守り活動を支援を推進し、地域ネットワークの構築に努めた。担当圏域内の行政主催の会議は90回、地域主催の会議は50回、地域ケア会議1回他を含めると192回の会議に各専門職を派遣し、個別ケース対応に関する他機関との連絡調整は552件と、ほぼコロナ以前のセンターの取り組み状況に近づきつつある活動が行えた。そのような中、併設特養での7月から9月までの期間のクラスター発生には、保健師や専門職の持てるスキルをフルに活用させながら、自施設の支援にも徹底した取り組みを行い、改めて地域包括支援センターの専門性の意義を確認出来た年でもあった。</p> <p>2. 相談窓口としての対応件数は、総合相談支援493件、介護予防支援1,964件、権利擁護102件、その他の困難事例対応等も合わせ延べ3,331件、携わった実人数は2,835件を対応した。広報・啓発活動は、65回(内 介護予防支援は14回)の実施で対象人数は1,637人(内 介護予防支援は246人)であった。専門職4名とケアマネジャー2名、独自のネットワーク、他機関との連携もしつつ、東奔西走の一年であった。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域づくりへの貢献				
事業評価	<p>1. 事業の経営安定: 現在要介護者36名、要支援者61名の計97名(67名換算)の利用者を担当している。昨年度は6月に週3回の非常勤スタッフを、今年度からアソシエイトの主任介護支援専門員を迎え入れ、新規介護相談も常に複数受ける等しており、昨年より要介護者20名、要支援者18名の増加となっている。コロナ禍での対応の難しさがありつつも、利用者数は開設以来最大となった。他事業所からも今までの活動に対し、一定の評価を得ており、引き続き介護相談はコンスタントに来ている。「オリンピアなら」との困難事例の相談も増えて来ているが、増員したスタッフ間で協力をしながら、また各事業所や地域包括支援センター、行政等とも良好な関係を維持しながら、少しでも収支改善が図れるよう邁進していきたい。</p> <p>2. 地域づくりへの貢献: コロナ禍も3年目という事で、地域での行事も少しずつ再開しつつある。昨年度は教会の牧師が人材不足にて1年間無牧となり訪問等でケアマネも不在な事も多く、地域への存在感が高まらず地域へのアピールが上手くいかなかった。今年度から教会も常駐の牧師が復活し、ケアマネジャーも2.5人に増員したことで、昨年上手くいかなかった地域との交流などによる事業所アピールに力を入れていきたい。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 認知症ケアの拠点としての地域交流 3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
総括			
<p>2022年度は、長く続くコロナ禍の中、ノーマライゼーションを実現することと、収入を安定させた財政状況を確立していくことを目指す1年であった。スタッフにコロナ感染者が出る中、ご入居者へは感染を広げることなく対応できたが、今後も課題は抱えている状況である。より実践できる計画を策定していくことが2023年への課題となる。1年を通して、安定した収入を確保することができた。グループホームの入退居に対応できたこと、早期発見、早期通院により、入院期間を短くすることも実現できている。また、デイサービス部門も好調であったことから、施設としての安定感が高まることに繋がった。研修やカンファレンスを充実させ、職員確保に努めていくことをこれから推進していき、次年度はより高いレベルでのケア、財政状況を実現していきたい。</p>			
事業評価			
<p>1. 利用者の生活の質の向上:「生活の主人公は利用者ご本人」であり、コロナ禍であっても法人理念が変わることはない。そのため、ご入居者が中心であり、ご入居者にとっての普通の生活を実現していくために、少しずつ外出なども感染対策を考えながら実施していくことができた。</p> <p>2. 認知症ケアの拠点としての地域交流:法人の認知症理解の講演会など、地域の居宅を中心とした事業者へ情報発信を行った。今後は、情報発信を行うと共に、その過程で一緒に働いてくれる地域の仲間を探していきたい。グループホームとデイサービスが一体となり、地域に向けての拠点となれるように推進していく。</p> <p>3. 職員の資質向上:介護福祉士などの資格習得に励む職員が増えており、ホームとしても後押ししている。法人が開催している初任者研修にも毎年受講者を出しており、向上心に満ちている。</p> <p>4. 財政基盤の確立:安定した収入を確保できた一年であった。同拠点のオリンピア篠原との関係を高めてお互いの収益を増やしていけるように協力していくことを模索した一年であった。</p>			
研修	<p>【内部】リーダー育成研修・初任者研修・新入職員OJT・新任研修・認知症理解の研修・非常災害コンプライアンス・フレイル・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・ハラスメント</p> <p>【外部】コンプライアンス研修・虐待防止研修(神戸市)・防災研修・LD理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習	【見学】居宅介護支援事業所・入居希望者の見学・デイサービス体験利用・オリンピア中央(特養・あんしんすこやかセンター等)		
ボランティア	<p>【実習】総合衛生学院介護福祉科・社会福祉士実習</p> <p>【ボランティア】法人保育事業・障害事業(リモート交流等)</p>		
行事	<p>誕生日会・消防設備点検・第三者評価・オリンピア北保育園リモート交流会・オリンピア都こども園花の日礼拝・収穫感謝祭・屋上BBQ・ピザパーティー・ひな祭り・イースター・ライトアップブルークリスマス(パーティー・リース作り等)・ハロウィン・お月見・母の日・父の日・節分・ドライブ・お花見紅葉狩り</p>		
取得資格	初任者研修(1)、実務者研修(1)、介護福祉士(1)		

施設	オリンピック灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業評価					
1. 入居者が主人公となる生活の構築:「生活の主人公は利用者ご本人」であり、コロナ禍であっても法人理念が変わることはない。そのため、ご入居者が中心であり、ご入居者にとっての普通の生活を実現していくために、少しずつ外出なども感染対策を考えながら実施していくことができた。					
2. 職員のスキルアップと育成:資格習得に励む職員、リーダー育成研修などのスキルアップに励む職員、それぞれの力量に合わせて、法人内外の研修を通して成長を目指した。虐待防止研修、身体拘束防止研修等の法定研修を通して、オリンピックの指針を確認する場として学ぶことができた。					
3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:コロナ禍は続いているが、少しずつ地域へと顔を出す機会が増えている。法人の認知症理解の講演会等を通じて、情報発信を行い、地域との関わりを持つように努めた。利用相談、施設見学は例年通り受け入れることができています。					
4. 財政基盤の確立:1年を通して高い収入を安定して得ることができた。修繕費、人件費など、必要なものが多くあったが、収入を高く保つことで対応していくことができた。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業評価					
1. サービスの質の向上:グループホームとの共用型であるデイサービスとして、一体となって事業を展開した。新しくご利用いただくご利用者は、認知症の症状などもあり、他のデイサービスでは馴染めない、受け入れてもらえないという方が多くあった。オリンピック灘でご利用を始められてから、パーソンセンタードケアを基盤としたケアに関わり、デイが生活の一部となっただけにしている。また、グループホームへの入居希望から、待機の間、デイサービスをご利用するケースが続いており、実際にデイサービスからグループホームへの入居へと繋がっている。共用型、認知症対応型というポイントをしっかりと考えて、サービスの提供を構築している。ご本人だけでなく、ご家族、ケアマネジャーからも希望や意見をいただき、ケアプラン作成という形でご本人に寄り添ったケアを今後も続けていく。					
2. 財政基盤の確立:下半期頃より、利用枠がかなりいっぱい状態になり、デイ単体としても収益を上げることができた。デイサービスからグループホームへと入居に繋がるケースもあり、共用型としての本体と連動した収益の上げ方も実施できている。					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>2022年度は、コロナ禍からの再出発を模索する1年であった。年度当初は感染拡大による経営状況の悪化、施設内での生活の制約など、試練のスタートとなったが、各部署において「今だからこそできる」チャレンジを続けていくことができた。特に、ヴィッセル神戸・サントリーウェルネスとの共同企画である「Be Supporters!」の取り組みに各種メディアに何度も取り上げられ、光朔会オリンピアの知名度向上に大いに貢献した。また、今年度から再開したスウェーデン研修やロータリークラブのRYLAIにスタッフを参加させたほか、介護職員初任者研修においても多くの受講者を迎えることができ、人材育成に注力することができた。さらに、コニカミノルタやウシオ電機、ノーリツ等、多くの企業との共同プロジェクトを実施し、日本の介護現場の改善に大きく貢献することができた。</p>		
事業評価	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせるにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。</p> <p>2. 広報活動の強化：ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、「介護ニュースJoint」等のインターネット媒体や、各種メディアを通じた情報発信を行うことができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立：介護報酬改定による収入減に加え建物や備品の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、収入の改善および支出の見直しを実施し、次年度への備えができた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：大阪大学大学院との介護とテクノロジーに関する共同研究、各種民間企業への新商品開発協力など、外部団体との協働により、新たなチャレンジに向けてスタートを切ることができた。</p> <p>5. 人材の育成：従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの外部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員研修(オンライン)・新入職員OJT・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束適正化研修・スウェーデン研修・リーダー研修</p> <p>[外部] 介護現場におけるリーダー育成セミナー・神戸市ノロウイルス食中毒予防オンライン研修 「多職種で支援する摂食嚥下障害～訪問歯科医師から学ぼう編～」・RYLAセミナー</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学] 薫化舎(2)[実習] 神戸医療福祉専門学校(1年8・2年9)</p> <p>・兵庫県立総合衛生学院介護福祉士学科(2)・介護等体験(松蔭女子学院大学30)</p> <p>障害者職場体験(1)・トライやるウィーク(吉田中学校2・須佐野中学校3)</p> <p>インターン(2)・ミカエル兵庫幼稚園(40)</p>		
行事	<p>お誕生日会・運営推進会議・お花見(御崎公園)・こどもの日・母の日・父の日・敬老の日</p> <p>ハロウィンパーティー・クリスマス会・初詣・豆まき・バレンタイン・梅見(須磨綱敷天満宮)・ひな祭り</p> <p>消防避難訓練・発達障害理解のための基礎と実践講座(オンライン)・Be Supporters!!</p> <p>オリンピア福祉塾講座</p>		
取得資格	介護福祉士(3)・介護職員初任者研修(4)・第二種衛生管理者(1)		

事業報告

2022年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1, ケア理念の遵守 2, 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う 3, スタッフの資質向上をめざす				
事業評価					
1. ケア理念の遵守:2022年度もコロナウィルスの影響を受け、ご利用者の生活に制限が多い中ではあったが、オリンピックの理念、ビジョンをケアの基礎としパーソンセンタードケアの実践を行った。					
2. 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う:コロナ禍であってもオンラインを併用しながら運営推進会議を中止することなく、開催を継続することが出来た。また、Be supportersの活動に参加し、地域のサッカーチームであるヴィッセル神戸との繋がりが出来たと共に、多くのメディアに取り上げて頂き、地域との交流の機会のアップにも繋がった。 年間稼働率97.5%を達成し、収入予算を達成した。					
3. スタッフの資質向上をめざす:派遣、紹介会社を利用することなくスタッフが定着し、運営が出来た。 スタッフ個々に合った研修の機会は少なかったが、2022年度からスウェーデン研修が再開し、グループホームからスタッフ1名が参加させていただき、モチベーションアップに繋がった。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	仲原 広樹
事業目標	1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う 2. 法人内の中継地点としての機能を果たす 3. 人材確保と育成を図る				
事業評価					
1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う:コロナ禍で制限された生活の中で様々な事情を抱えた近隣地域の高齢者の方々が少しでも安心して過ごすことが出来るようにショートステイとしての役割を担うことに努めた。オリンピック兵庫内でのコロナ発生があった中でも、各部門や嘱託医、その他専門職との連携によって陽性者を含め、ご利用者の対応を行う事が出来た。引き続き、感染予防対策を徹底し対応を行っていく。					
2. 法人内の中継地点としての機能を果たす:法人内の入所施設や他施設への入所待機者の方々に対して入所までの期間を安心して待つことが出来る場所とし、入所等が決まればスムーズに事が運ぶ中継地点としての機能を果たせるように連携を図れた。近隣の居宅介護支援事業所から施設入所までの利用の相談を定期的に頂いているので、地域で信頼される施設としての機能を果たしていく。					
3. 人材確保と育成を図る:ご利用者の満足度を高めていく為にも募集を行い体制強化に努めた。人材育成については新入職員への指導とともにその他職員に対しても適宜面談を実施し、問題に対して対応を行っている。 職員一人ひとりの生産性を高める為に、ケアリーダーやユニットリーダーと連携し業務改善を図っていく。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材募集育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業評価					
1. 財政基盤の確立: コロナ状況が長引いて改善せず、年度を通して例年並みの新規を受け入れることが出来たが期待値を下回り予算達成に至らなかった。新規紹介、曜日追加などのプラス要因は例年通りであり、獲得能力が低下しているものではないと判断している。					
2. 地域との密着: 地域密着型として運営推進会議の開催は規定の年2回を実施することが出来た。ただ、地域と結ぶ様々な行事は実施されなかった。					
3. 人材募集育成の強化: 年度当初に新規スタッフが入り、今年度については定着し、戦力化することが出来た。送迎業務に関して残業体制が続いていたが新規職員の定着で解消することが出来た。外部研修はリモートなどを利用することで実施することが出来るようになった。					
4. 新たな保険外事業への挑戦: 初任者研修については例年少数であったが8名の修了者を出すことが出来た。研修開始当初外部参加だった2名が光朔会雇用となり戦力化に寄与したと考えている。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業評価					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践: 身体的、精神的に重度と言われる高齢者の施設入所の動きが加速していると感じる。近年は、少しの手助けがあれば一人で在宅生活を続けられる方の依頼が増えており、在宅サービスはより「自立支援」の側面が強く求められている。					
2. 他部門との連携強化: デイサービス、ショートステイとヘルパーを併用される方は年々増えている。ヘルパーがオリンピックなので、デイサービスやショートステイもオリンピックで、またはその逆のパターンで依頼を伺うことがある。それぞれに連携してサービスの質の向上を図りたい。					
3. ヘルパーの養成: 今年度も「チームケア」を心がけ、ヘルパーが一人で抱え込むのではなく、お互いに情報共有や助言、必要のうじて同行するなどして「オリンピックのケア」を実践できるように努めた。それぞれのスキルアップを体系的に行っていくのが課題である。					
4. 保険外サービスの具体化: 通院時の院内付添い、介護保険の範囲を超える掃除(大掃除など)、既存の保険外サービスは継続できたが、それ以上の部分を実施することは難しかった。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業評価					
1. 財政基盤の確立:2022年度の収支差額ではマイナスとなったが、法人の運営しているサービスに利用者を紹介するなど行い、財政基盤の確立に貢献する事ができた。					
2. 地域、他事業所との連携強化:圏域である浜山あんしんすこやかセンターをはじめ、市内のあんしんすこセンター、他事業所のケアマネジャーとの勉強会に参加し、スキルアップと連携強化に努めた。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上:コロナの影響により参加型の研修会、勉強会が中止が多い中、リモートでの勉強会や事業所内で研修を実施するなど、新たな知識を獲得するように努めました。					
4. 新規利用者の獲得:新規依頼があった場合は断る事無く、担当となるようにしました。コロナの影響もありプラン件数が減少した時期もあったが、年間を通して件数を徐々に回復させる事ができた。					
5. 利用者、家族の尊重:毎月の訪問や電話でのモニタリングの際に利用者、家族の希望、要望を確認した上で、利用者が出来る限り自立した生活を送れるように相談、調整をさせて頂きました。モニタリング実施時には、利用者、家族のニーズを引き出せるように傾聴を常に意識して実施した。					

施設	オリンピック都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピア・都こども園の理念、理解の徹底 2. 安全・安心な環境徹底の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携 6. 人材の定着と確保 7. 次世代育成		
総括			
<p>コロナ禍における保育は3年目となり、2022年度も子どもの健全な成長のための保育環境・保育の質を保証することに注力した。度重なる対応の変更にはすみやかに柔軟に対応し、家庭との連携を大切に保育を進めることができた。少しずつ対面でおこなえる活動が増え、職員の資質向上に向けての研修会や大会への参加、また、地域子育て支援に向けての活動の見直し、実習やトライやるウィークの受け入れができるようになったことは、大変うれしいことであった。人材の定着という観点からは、園内研修や面談・相談の充実を図り、退職者は最低人数に抑えられた。また、実習からのアルバイトを経て、相互理解をもって入職につなげることができたことは評価できる。</p>			
事業評価			
<p>1.2. 正規・非常勤を問わず、全職員で話し合う機会を多くもつようにし、その時その時に課題を解決することができた。すべての職員がオリンピックの理念を理解し、子ども・保護者に同じように接することができ、都こども園の教育・保育の評価につながっていると感じた。</p> <p>3. 昨年度は地域子育て支援が思うようにできなかったが、今年度は人数を制限しながらではあるが、安心な環境で親子で過ごせるということで昨年を上回る参加人数となった。一時保育の問い合わせが増え、柔軟に受け入れをおこない、昨年より大幅増の受け入れと課題をもつ子どもについては専門機関につなげることができた。</p> <p>4.5. 対面・オンラインのハイブリッドの研修会が増え、参加の機会が増えた。キャリアアップ受講者は順調に増え、それぞれの経験に応じた課題を学び、実践できている。</p> <p>6.7. 実習から入職につながる道筋ができたことは大きく評価できると思う。</p>			
研修	<p>【内部】感染症対策マニュアルの理解と実践・感染症の正しい理解・緊急時における対応・事例研究</p> <p>【外部】キャリアアップ研修・乳幼児研究部会公開保育 グループディスカッション・フッ化物研修 食育研修 講演会・幼児の運動あそび・アレルギー対応研修・すこやか児巡回指導研修 調理従事者研修・保育情勢説明</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>神戸松蔭女子学院大学管理栄養学科(2)・神戸女子短期大学栄養学部(2) 頌栄短期大学(前期2・後期3)・神戸教育短期大学(2)・神戸元町こども専門学校(3) 甲南女子大学5歳児交流・トライやるウィーク(11) 入園・一時保育希望者園見学(51) 就職希望学生(3)</p>		
行事	<p>進級式・入園式・礼拝(誕生礼拝・クラス礼拝・イースター・ペンテコステ・花の日・収穫感謝・クリスマス)・健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査)・水あそび・プールあそび・運動会 おたのしみ会・夏まつり・秋まつり・節分・生活発表会・卒園式・日々の散歩・園外保育など ※すべての行事は感染症対策をとりながら、できる方法を考え実施した</p>		
取得資格			

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 西川 勝久
事業目標	1. 健全財政の安定 2. 育児担当保育のさらなる充実 3. 保育の質の向上のための研修の充実 4. 人材の確保と職員の業務効率化		
総括			
<p>コロナ感染症の対応も継続しており、行事開催などでも保護者、保育者の負担も大きかった。</p> <p>キリスト教保育を基盤として、育児担当保育への取り組みの理解を深め、子どもたちの自主的で主体的な活動を大切にした保育に取り組んできた。研修などで学んだことを実践していける場として、職員間の共通理解を持って取り組むことができた。</p>			
事業評価			
1. 健全財政の安定			
事業収支差が、当初予算で1222万円、補正予算1523万円、決算1666万円となり、補正予算より143万円上回ることができた。			
2. 育児担当保育のさらなる充実			
外部研修への参加や内部研修を実施し、実践に取り組むとともに、学んだことを他の保育士にも講義する機会を設け充実を図った。			
3. 保育の質の向上のための研修の充実			
研修会や職員間の共通理解により、保育者間の意識を高めることができ、保育者の定着につながった。			
4. 人材の確保と職員の業務効率化			
オリンピアの保育観を職員間で確認し、職員の経験などを踏まえ、より効率的な業務の取り組みをした。			
研修	育児担当制保育の研修を、年度当初の4月に講師を招いて園内研修として実施した。 園外研修にも積極的に参加した。(キャリアアップ研修含む)		
見学・実習 ボランティア	トライヤル(北神戸中学校) 甲子園短期大学(1)・大阪こども専門学校(1)		
行事	入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・花の日礼拝・お泊りキャンプ 都こども園交流遠足(六甲山YMCA)・乳幼児保育参観・敬老の日の集いリモートにて(中央デイ、灘) 運動会・収穫感謝祭(ハロウィン)・クリスマス会(灘リモート中継及びyoutube限定配信) お餅つき・大きくなったよの集い(youtub限定配信)・お別れパーティー・卒園式		
取得資格			

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 小規模多機能ケアの確立 4. 人材確保と育成(研修)		
総括	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、13年目を終えることが出来た。今年度は利用者・入居者の方の獲得に苦戦した年であった。今年度の経験を糧にし、成長できるよう精進していく。長引く新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式は様変わりしたが、そのようななかでもスタッフは感染対策を徹底しながら利用者・入居者の皆様に生活を楽しんでいただこうと、今できることに一生懸命取り組んでいたことは評価できると思われる。</p> <p>地域との交流が再開されつつあるので、これからは地域との新しい形の関り方を模索し、地域共存を再構築する。そして、これからも利用者・入居者の皆様の健康と生活を守りながら、オリンピアの理念に則ったサービスを提供できるよう、スタッフ一同協力して様々なことに挑戦していく。</p>		
事業評価	<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門の三部門が連携、協力を図り、居宅の紹介から小規模多機能利用、小規模多機能利用から特養入居、といった馴染みの関係のなかでの継続した介護サービスを提供することができた。</p> <p>2. 財政基盤の構築: 今年度は利用者の獲得に苦戦した年であった。今後は利用者獲得方法を見直すことで、利用率・稼働率の向上、ひいては収入増につなげる。また、支出を見直し、収支の安定を図る。</p> <p>3. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりおひとりに寄り添い、なじみの環境、住み慣れた地域の中で継続した生活を支援することができた。</p> <p>4. 人材確保と育成(研修): 今年度は人員不足に陥ったときもあったが、下半期にはいり、3名の職員を採用することができた。今後は定着率の向上、計画的な採用を実践していく。研修に関しては計画的に内部研修を行い、専門性の向上、知識の共有を図ることができた。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員研修・新入職員OJT・リーダー研修・高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修 ・感染症予防研修・事故防止対策研修</p> <p>[外部] 施設長会研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>・兵庫県立神戸総合衛生学院(3)・兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校介護実習(8) ・傾聴ボランティアグループテンフラワー(1)・裁縫ボランティア(1)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・音楽療法教室・健康野菜市・屋上でランチピクニック・母の日クッキング 父の日プレゼント・敬老の日食事会・クリスマス会・桃の節句お茶会・お話をべちゃえ・給食会 上池地区避難訓練</p>		
取得資格			

事業報告

2022年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業評価					
1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し。馴染みの環境、人間関係の中での在宅生活の継続を支援することに注力した。今年度も訪問に力を入れ、利用者・家族の希望される生活の実現を目指した。複数回訪問や遠方への訪問、その時々状態に合わせての利用形態の変更、受診や買い物の付き添いなど、コロナ禍においてもその人らしい暮らしの実現の支援に積極的に取り組むことができた。					
2. 財政基盤の確立:登録25名からのスタートであったが、入院や施設入所、年末のコロナクラスターなどがあり、2022年度は登録23名で終了した。年間収入70,480(千円)、予算に対して86.3%の達成率。次年度こそは回復を目指す。					
3. スタッフの確保と資質向上:スタッフの退職があり、人員不足に陥った時期もあったが、下半期に職員2名、非常勤職員1名採用できた。研修はコロナ禍ということもあり、主にリモート研修や内部研修を行った。					
4. 地域の拠点作り:運営推進会議は年間4回開催した。町内清掃や防災訓練に参加し、地域に貢献できた。やさい市は年間を通して開催し、地域との交流の機会を持つことができた。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 入居者主体の支援 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保と育成(研修) 4. コロナ禍での地域との関り				
事業評価					
1. 入居者主体の支援:オリンピックの理念を尊重し、入居者の方お一人おひとりがその人らしい生活を送っていただけるよう、寄り添ったケアを行うことができた。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会の自粛や外出、ご家族を招いての行事などを行うことができず、入居者様やご家族の皆様寂しい思いをさせてしまった。次年度は、感染対応を行いながらコロナ禍でも楽しめる企画の立案、実施をしていく。					
2. 健全な財政基盤の確立:年間収益111,047円(千円)、予算に対して98.0%の達成率であった。年間稼働率97.1%。今後は安定した収入を得られるよう、高水準の稼働率を維持できるように努力する。					
3. 人材確保と育成(研修):今年度は下半期に入り、職員1名採用することができた。今後は採用活動の内容を今以上に充実させることで採用の精度を上げていく。研修に関しては計画に沿って委員会や勉強会を行い、職員の質の向上に努める。					
4. コロナ禍での地域との関り:コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流を持つことが難しくなった。しかし、特養入居、緊急ショートステイの問い合わせや申し込みをいただき、地域との繋がりを感ずることができた。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う 2. 在宅支援を他事業所と連携して行う 3. 財政の安定 4. 人材確保と育成(研修)				
事業評価	<p>1. 地域の相談窓口としての役割を担う:少しずつ地域行事も再開してきており、地域住民の方と交流する機会が持てるようになり、問い合わせ・相談もあり迅速に対応する事で、気軽に相談できる窓口としての役割ができた。</p> <p>2. 在宅支援を他事業所と連携して行う:圏域の地域包括支援センターからの依頼も各機関と連携を取りながら対応できた。困難ケースの相談もあり、医療機関や他事業所と連携を図ることで利用者の希望に沿ったサービス調整を行う事ができた。</p> <p>3. 財政の安定:介護保険更新にあたり介護度が軽度になる傾向があった。要介護者プラン件数705件、要支援者プラン件数225件で年間総合プラン件数は増加している。しかし予算額には達成する事ができなかった。(達成率:88%)</p> <p>4. 人材確保と育成(研修):研修に参加し、地域の情報収集する事で資質の向上を図ることができ、職員間の協調性・情報共有など業務しやすい環境作りも実践できた。。</p>				

施設	オリンピア都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
総括			
<p>新型コロナウイルスの不安が残る中、親子プログラムは予定通りにスタートできた。すこやかクラブで16組の参加があったことはありがたかった。放課後児童クラブについては毎日受け入れを行った。安全に安心して過ごせるように利用者、職員の安全対策を徹底した。児童館から感染者を出すことなく過ごせたことも良かった。コミュニティ事業についてはコロナ禍の中にあつたため、2022年度も規模を縮小して実施した。指導員を確保できなかったことは反省すべきところである。また、要である職員の闘病、逝去も大きな痛手となった。職員間の情報の共有、報・連・相が確実な仕事の基本であることを伝え続けた。新年度に向けて指導員は人材紹介会社からの採用を決めるに至った。</p>			
事業評価			
<p>1. 行事プログラムに関しては、二部制にして密を避け、安全を確保しながら実施することができた。プログラムについては外部講師にも依頼を試みたが、次年度は更に工夫できるようにしていく。</p> <p>2. 親子館事業の各プログラムを通して、母親の仲間づくり、居場所づくりに配慮し、子育ての悩みを抱え込まないように母親とのコミュニケーションを職員・地域ボランティアと共に大切にできた。</p> <p>3. 主体性を大切にしながら、集団生活の中で守るべきルールをそれぞれが理解できるように見守った。また、自分の言動に責任を持つこと・協力・寛容ということの必要性を子ども自身が学年に応じて理解できたと感じる。</p> <p>4. この一年も地域の方の参加や交流が積極的にできなかったことは残念だが、作品展等では作品の展出という形で参加していただくことができた。もちつきと昔あそびができたことも良かった。</p> <p>5. 仕事に対する意識の持ち方・協調性・報連相等業務には欠かせない基本の重要性を伝え続けた。信頼される児童館であるため全職員のチームワークで成り立つこともそれぞれが念頭におけるようにしていく。</p>			
研修	館長研修・コーナー長研修・指導員研修・放課後児童クラブ支援員研修・専門相談研修		
見学・実習 ボランティア	[実習]「ワークキャンプ」は中止となったが「トライやるウィーク」の活動は実施できた。 [ボランティア]すこやかクラブの託児ボランティア(5)		
行事	すこやかクラブ・プレスこやか・なかよしひろば(手形カレンダーづくり・ママのリフレッシュタイム) 乳幼児夏まつり・水遊び・学童お誕生日会・お楽しみ会・お別れお楽しみ会等合同行事 月行事(工作等)・クリスマス会・新年お楽しみ会 コミュニティ事業(ミニ夏まつり・敬老の日プレゼント・都作品展・もちつきと昔あそび) 夏まつりは規模を縮小して実施。		
取得資格			

施設	社会事業(障害福祉サービス)部門	報告者	センター長 細田 尚誉
事業目標	1. サービス事業の拡大とご利用者様獲得 2. 人材の育成と確保 3. 地域連携と啓発活動 4. 障害事業部門の連携構築		
総括	<p>社会事業部門として11年目を迎えた2022年度は、コロナ禍の影響が続く中ではあったが外部イベントの再開や企業の活性化もあり受託作業の回復、販売会への参加も行うことが出来ご利用者様の社会参加も行えた。各拠点において感染症対策も前年の取り組みを元にした意識づけもあり、積極的な職員の徹底した対応で拠点での罹患者を出すことなく安心できる事業所環境の提供を行う事が出来た。</p> <p>また継続してスタッフが現場に携われ、育成や支援プログラム構築も今後への可能性を含めた取り組みが2022年度も出来今まで以上に部門の人材の育成に土台となる要素が増えた。</p> <p>製造作業における収益も順調であり、運営上の無駄な支出の制限に改善の余地があったように見られる。</p>		
事業評価	<p>1. サービス事業の拡大とご利用者様獲得: 事業継承による新しい拠点はご利用者様、職員共に継続したサービスに大きな問題もなく新たな事業所として取り組めた。既存の拠点においては新規のご利用者様の獲得が微増であり全体的に見ると各拠点定員に空きがある状況となった。</p> <p>2. 人材の育成と確保: 正職員の継続的勤務が維持でき、支援の安定と取り組みの継続を行える状況となった。若いスタッフの獲得も少数あり法人理念を繋げた支援が行えるように取り組んでいるが、スタッフの思いのもと支援の統一が難しい環境が現存している事は今後の課題と共に取り組んでいる。</p> <p>3. 地域連携と啓発活動: イベントの再開や地域の評議会も回復傾向にあり、行政と共に関連事業所との連携も図ることが出来ている。参加機会を得ることで活動報告を行うことも同時に取り組むことが出来た。</p> <p>4. 障害事業部門の連携構築: 継続して勤務できている事で支援の思いの統一が難しく、全体が一つとなった支援が部門内で行える環境の構築には時間を要するようである。</p>		
研修	<p>サービス管理責任者研修(1名受講)</p> <p>相談支援従事者研修(1名受講)、強度行動障害支援基礎・実践研修(4名受講)</p> <p>障害者虐待防止法研修(内部)</p> <p>リーダー研修(内部)</p>		
見学・実習	<p>神戸市立青陽灘高等支援学校生実習</p> <p>神戸市立友生支援学校生実習、芦屋特別支援学校生実習</p>		
ボランティア	<p>神戸市立灘さくら支援学校生トライやるウィーク、上野中学校・鷹匠中学校トライやるウィーク</p> <p>神戸教育短期大学保育実習、日本メディカル実習</p>		
行事	<p>就労・作業部会(月1回)、お楽しみ会(月1回)、慰労会、余島キャンプ参加、</p> <p>light it up blue世界自閉症啓発デー、篠山農作業、安國菜園農作業、避難訓練、</p> <p>HUG+展、たき火カフェ、シブレ里山農作業、CS神戸販売会、しあわせの村販売会、</p> <p>地域ふれあい会(漫才公演)、なだびときっさ、その他イベント(販売会)参加</p>		
取得資格	<p>サービス管理責任者(1名取得)、相談支援従事者(1名取得)、強度行動障害支援研修(4名修了)</p>		

事業報告

2022年度

施設	オリンピック岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	福田 新
事業目標	1. 就労移行支援 2. 職員の質の向上 3. 障害事業部門間の連携				
事業評価					
<p>1. 就労移行支援:菓子製造事業が安定した注文があり、菓子製造の作業が増えている。菓子製造の作業に取り組める利用者様を増やす為に、新しい人に挑戦してもらってできる人が増えました。どの利用者様もできるポストイング作業を定期的に提供する事で、利用者様に作業に対する意欲を持って頂いた。軽作業、外作業も色々な方に挑戦して頂き、作業の幅を広げる事ができた。健康面では感染症対策を徹底して行き、ご利用者様、ご家族を含めて安心して出勤して頂いた。</p> <p>2. 職員の質の向上:今年度は担当制度を導入して、各職員に支援に取り組んでもらった。個別支援計画作成の為の面談と作成にも参加してもらい、支援についての意識づけを行った。週に1回の会議とグループラインでの連絡を行い、タイムリーな情報交換で支援を行った。</p> <p>3. 障害事業部門間の連携:住吉とは作業連携を取り、外部からの委託作業と一緒に取り組んだ。 住吉東とは東の重度行動障害の方の取り組みを一緒に行った(作業提供、支援の組み立て、会議参加)。 長峰とは利用者様についての情報共有、東の利用者様支援でのお風呂場の使用などの連携を行った。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	久保 弘子
事業目標	1. 利用者延べ数の確保 2. 作業収益の増収 3. 法人内作業の連携と強化 4. その他				
事業評価					
<p>1. 利用者延べ数の確保:支援学校から実習を経て契約があったが、支援センターとのFプロ等のイベントへの参加の結果が出ず、契約に至ることができなかった。コロナ禍による不安もあり、在宅での支援を希望するご利用者には継続して在宅支援を実施することにより、一定数の利用者数は確保できた。今後は行政との連携を強化し、新規契約に向けて積極的に取り組む。</p> <p>2. 作業収益の増収:定期的に安定した作業があり、地域の企業との契約も新たに実現できた。販売会の再開も始まり、自主製品の売り上げも伸ばすことができ、今後も新しい販売販路を開拓する見込みがあり、工賃向上に繋げる。</p> <p>3. 法人内作業の連携と強化:法人内での畑作業等が実現できなかったが、今後はコロナの予防対策を徹底した上で始めたい。また他の事業所からの作業依頼の増加により、今後も法人内作業の連携強化に尽力を注ぐ。</p> <p>4. その他:計画外では、人材獲得において、継続的に勤務可能で将来性のある優秀な人材を獲得できた。今後は獲得した人材の育成に邁進し、発展に貢献する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック長峰	部門	共同生活援助	報告者	高下 千賀
事業目標	1. サービス事業の拡大とご利用者様獲得 2. 人材の育成と確保 3. 地域連携と啓発活動 4. 障害事業部門の連携構築				
事業評価					
<p>1. サービス事業の拡大とご利用者様獲得: 1名の退室があったが、部門内でのご利用者の入居により満室を維持できた。スムーズに連携を図り環境の変化によるストレスに対応出来ている。サテライト利用を希望されているご利用者も自立に向けて準備を進めている。また、サービスの向上として創作活動やカラオケを楽しんだり、週末は調理実習や温泉、動物園など休日の過ごし方にも取り組んだ。</p> <p>2. 人材の育成と確保: 初任者研修、強度行動障害者支援者養成研修(基礎・実践)などの研修に取り組んだ。また、引き続きサービス管理責任者など資格獲得しステップアップを目指し、支援の向上に繋げていく。人材は充足しているが、次を見据えた新しい人材確保も継続的にしていく。</p> <p>3. 地域連携と啓発活動: ご利用者のケース会議などに積極的に参加し他の相談事業所や関連機関の方と連携を深めた。また灘区自立支援協議会へ参加する事で地域の発展や啓発活動を目指す。</p> <p>4. 障害事業部門の連携構築: 部門間での情報共有を徹底し、ご利用者への支援の質の向上に務めた。今後も部門間での支援の幅を広げネットワークを広げられる組織作りに励みたい。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック住吉東	部門	生活介護	報告者	鷹野 雅子
事業目標	1. ご利用者様獲得の徹底 2. スタッフ育成(支援スキル向上) 3. 財政面の安定した運営 4. 一貫した支援体制への連携				
事業評価					
<p>1. ご利用者様獲得の徹底: 部門内にて利用者様の異動があったため、一時的には利用者の増加となったが、現在は他施設利用などのより結果的には実績日数においては減少となった。新規利用者様は1名のみ通所となり、登録人数は契約解除により減少している。</p> <p>2. スタッフ育成(支援スキル向上): 部門長、サビ管を交えた定期的な会議を行い支援の統一化を図り、寄り添った支援を行う体制を整え、現在も継続して支援に当たっている。職員の支援スキル向上の為の外部研修に参加し、支援に活かすことが出来ている。</p> <p>3. 財政面の安定した運営: 利用者様へ寄り添う支援を行うにあたり、必要と思われる人員以上の配置が必要となった。物品購入の支出や利用者様より実費を頂き支出を抑えるように努めている。</p> <p>4. 一貫した支援体制への連携: 部門内の連携や関係機関との連携を強化し、支援の流れを作る事ができた。利用者様にとって過ごしやすい環境をと整える事に重点を置き、部門内での人員配置や他施設利用でご利用者のニーズに応じて取り組んでいる。現在も引き続き支援体制の連携を続けている。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア相生	部門	就労継続支援B型	報告者	細田尚誉
事業目標	1. 啓発活動の徹底 2. サービス提供の環境整備 3. 人材確保のハブとなる 4. 地場産業との連携 5. 事業継承での人材の構築				
事業評価					
1. 啓発活動の徹底:コロナ禍の影響が続く中、地区の評議会の再開もあり事業所活動報告を行う機会も増え、行政や関連事業所と連携も図ることが出来た。特別支援学校になど実習の受け入れなど法人理念の理解を示す機会を得ることもできており、継続した卒業見込みのご利用者様の獲得に繋げている。					
2. サービス提供の環境整備:事業継承初年度の助成金等の活用は行うことが出来なかった。法人内における業務機材の補充や契約更新時における整備は行うことが出来、順次改善が見られた。					
3. 人材確保のハブとなる:神戸地区との連携において、スタッフの派遣を継続的に行い法人活動の理念などを発信することが出来た。新しい人材の獲得に措いて、結果を出すことは出来なかった。					
4. 地場産業との連携:相生地区における地場産業との連携は形にすることが出来ていないが、地区における商品の受託作業は増えご利用者様に地域に根付いた作業の提供は継続的に行えた。					
5. 事業継承での人材の構築 :継続して勤務している職員の新しい目標も明確にすることが出来、地域に密着した事業所を生み出すことにおいて積極的な行動をとることが全体で取り組むことが出来ている。					

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す 5. 人材確保と育成の強化		
総括			
<p>サービス付き高齢者向け住宅部門では、長期間に渡って満室の状態を維持することが出来た。空き室が出来た時に、退居日の翌日に次の方に入居頂く等、年度途中までは空き室を0日で推移出来て、安定した体制の中で運営することが出来た。</p> <p>新しい入居者にデイサービス、ヘルパーのサービスをスムーズに使う流れも確立し、収益を増加させることが出来た。また、通院介助や買い物代行といった住宅の自費サービスを積極的に受けて対応していることで、収入も増加させることが出来た。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:お一人おひとりの事情に合わせて、しっかり寄り添えるケアの実践に取り組んだ。「快適な暮らしが出来ている」との評価を多く頂いている。</p> <p>2. 財政基盤の確立:満室を長く維持出来たこと、そして自費サービスを多く受けていったことで、安定した運営状況を作り出した。入居されている多くの方に提供するデイサービス、ヘルパーの利用量も増加し、収入を確保する基盤が出来た。</p> <p>3. 各種講演会やイベント開催:新型コロナウイルスの影響によって外出自粛の中、外出を控えて住宅の中で楽しんで頂ける様に、クッキングレクや食べたいものの注文をお聴きして買いに行く等、工夫を凝らしたイベントの実施に努めた。</p> <p>4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:入居者の方が不自由されず、快適な生活が出来る様に、日々環境整備に取り組んだ。 5. 新たな人材も順調に確保、育成出来た。</p>			
研修	施設内虐待防止研修、身体拘束防止研修等		
見学・実習 ボランティア	社会福祉士実習生受け入れ		
行事	食事イベント		
取得資格			

事業報告

2022年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	住宅部門	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業評価					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:入居者の方がこれまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式をオリンピック鶴甲で継続出来る様に、お一人おひとりに寄り添ったサービス提供を心掛けてケアにあたった。途中退居のケースが減り、「最後まで鶴甲で生活したい」というお声を多く頂けた。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間を通して長い期間、満室を続けることが出来た。空き室が出来た時も、迅速に次の入居者に入って頂けたので、安定して収入を得ることが出来た。また、通院付き添い、買い物代行、各種手続きのお手伝い等の自費サービスもしっかり定着して、皆様の生活が潤う様にお手伝いが出来た。</p> <p>3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整えることに力を注ぎ、お一人おひとりの要望に応じて各種手続きをお手伝いしたり、しっかりとお話を傾聴してきた。また、日常の清掃業務に加えて、定期的な清掃、危険箇所が無い様に安全に配慮して建物の維持管理を行った。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2022年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及 2. 人材確保・育成 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化。				
事業評価					
<p>1. オリンピアの理念を意識しつつ、ご利用者様目線で考えるケアを実践してきた結果、各スタッフに理念を理解してもらい、どのスタッフがケアに入っても差がない様に出来た。</p> <p>2. ヘルパーの確保については、特に修道会の方ではこれまでよりケアにあたる人材を多く確保出来た。質を高めつつ、それぞれの個性を活かせるよう、研修だけでなくヘルパー間の関わりの中で成長出来る雰囲気を作ることが出来た。</p> <p>3. コール対応等、柔軟に対応可能な体制を作ることが出来た。自費対応も増やすことが出来ているが、介護保険でのケアが増えておらず、今後に向けてもサービスの質の向上とともに介護保険のサービスを増やしつつ自費サービスの需要に対応出来る体制を作っていきたい。</p> <p>4. 研修会等への参加等、地域との繋がりを持つことがコロナ渦で難しく、アピールする機会は少なかった。今後に向けてそういう繋がりの方があれば積極的に参加し、アピールを継続して行っていき、オリンピックの知名度を向上させていきたい。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	下地正樹
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立: サービス付き高齢者向け住宅の入居者がデイサービスを利用するという流れができ、登録利用者数も徐々に増えて過去最高値を出すことが出来ましたが、コロナ罹患者や入院でのお休みが出ており、安定した財政基盤を構築していくためには、補充の為の対応を充実する事が必要。</p> <p>2. サービスの質の向上: スタッフが安定し、それぞれがオリンピアの理念を理解し、サービス向上に努めることが出来た。しかし、ご利用者様のニーズに応える多能工・考動する人財を育成出来なかったため、次年度は多能工・考動する人財を育成していく必要がある。</p> <p>3. 人材の確保・育成: 定期的な勉強会を行い、スタッフの技術や知識の向上につながる機会を作ることができた。しかし、スタッフがすすんで考動していける体制づくりには、あと一歩足りない部分があった。今後はチーム全体が今以上に成長していけるよう、研修や勉強できる機会を増やし、質の高いサービスを提供できる組織をつくっていく必要がある。</p>				

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 人材の育成 4. 財政基盤の確立		
総括			
<p>2015年に開所したオリンピア篠原は、8年目を迎えた。コロナ禍において、開所以来築いてきた地域との交流が途絶えてしまっていたが、徐々に再開し始めている。地域のお祭りや近隣への散歩等地域との関りが、少しずつではあるが再開し、普段の生活を取り戻しつつある。また、都児童館や、都こども園との交流は感染対策を徹底した上で、少しずつ再開することができた。しかし、まだまだ地域の方々をお迎えしての、イベントは再開できておらず、次年度の課題となっている。前年受審緩和を受けた第三者評価を受審した。評価機関の社長から今年度も高く評価していただいた。オリンピア篠原は次年度以降も地域に根ざしたホームとして、灘区の認知症ケアの拠点となっていけるよう、環境を整えていく。</p>			
事業評価			
<p>1. 「認知症ケア」の確立: 「オリンピアの理念・3つの約束」に基づいたケアの理解、実践に努め、オリンピアの認知症ケアをスタッフ一人ひとりが意識し、入居者様の「その人らしい」暮らしのお手伝いできた。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 地域のお祭りに参加したり、都児童館やオリンピア都こども園との交流が少しずつ再開した。また、リモートによる音楽コンサート、防災研修、入居相談を行い参加した。コンサートでは兵庫県下はもとより埼玉県や北海道の施設ともつながった。</p> <p>3. 人材の育成: オリンピアの職員はもとより派遣スタッフにも法人理念に基づいたケアを心掛けてもらうよう「オリンピアの理念・3つの約束」を説明した。</p> <p>4. 財政基盤の確立: コロナ禍において新入居者の確保に苦労した。退居者が11名と多く、入院者も含めて空室期間が例年以上に多い年となり、予算収益を下回る結果となった。次年度以降収益の安定を図れるよう、入居希望者の確保等を見直していく。</p>			
研修	<p>[内部] 新入職員(研修・OJT)・リーダー研修・認知症ケア・高齢者虐待防止・身体拘束廃止 ・感染症対策・成年後見制度・事業継続計画(BCP)・BtoB・オリンピア福祉塾講座</p> <p>[外部] 感染症対策・認知症介護実践者研修・発達障害理解のための基礎と実践講座・防災研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>入居希望見学(来訪・リモート) オリンピア都こども園・神戸市立都児童会・厳島神社こども神輿</p>		
行事	<p>誕生日会・第三者評価・消防設備点検、避難訓練・花見・イースター・世界自閉症啓発デー リモートコンサート・母の日・父の日・夏祭り・敬老のお祝い・クリスマスリース作り・クリスマス会 新年会・節分・ひな祭り・オリンピア福祉塾講座</p>		
取得資格	実務者研修(1)		